第五十一回中部日本高等学校演劇大会・愛知県大会参加作品

滝高等学校

応援団物語

作　瀧　源作

連絡先
滝　高　校
〒四八三―八四一八
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二一二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五ノ二十五

キャスト（男２０人・女１０人）

・応援団

崇晃（たかあき）（団長）　梨加
孝裕（副団長）　由紀
和秀　愛
貴彦　千紘
平田　智美
主征（かずゆき）　望美
奨三（しょうぞう）　佳苗
大寛（だいかん）　知里
雄介　あゆみ
優作
公志（たかし）

・チアガール部

茜（リーダー）
武田
成瀬

・野球部

誠太郎
英明
侑
雄太
宏
晃
大輔

団長
応援団

応援団
チアガール部

リーダー
梨加
リーダー
智美
梨加
団長
副団長
和秀
智美
知里
千尋
あゆみ
由紀

愛
佳苗
望美
チアガール部員
応援団員
団長

副団長
梨加

・オープニング　男子応援団によるダンス。ダンスが終わると、太鼓の合図で応援団は整列する。
滝～高～校　応～援～歌　１番！
（滝高校の応援歌を歌う。）
・応援歌が終わると、チアガール部が軽快な曲にのったダンスで登場。ダンスが終わると、応援団とチアガール部の対立が始まる。
何だよ！
何よ！
・乱闘
何すんのよ、あんたたち！
止めてよ！
暴力はよしなさいよ！
いつも野蛮ね。
いい加減にしてちょうだい。
ここは、俺達の練習場所だ！
勝手なことするな！
お前ら出て行けよ！
ここは、私達の練習場所よ
あんた達が出て行きなさいよ！
暑くないの？　その格好。
学校中カビ生えちゃう。
今時の応援はね、そんなむさくるしさよりも、フレッシュさよ。
スマートじゃなきゃ。
きれいじゃなきゃ。
かわいくなきゃ。
ねー。
何だと！
好き放題言いやがって！　俺達応援団は、七十年の伝統があるんだ。
昨日今日できたチアガール部とは訳が違うんだぞ！
私たちだって、十年の伝統があるのよ。

貴彦
団長
応援団員
団長
応援団員
団長
応援団員
団長
リーダー
梨加
智美
由紀

知里
あゆみ
阿部
智美
渡辺
リーダー
大寛
チアガール達
大寛
団長
大寛
リーダー

梨加

千紘
知里
あゆみ
副団長

応援団員

その伝統は、ボンボン持って阿波踊りか。
チャンチャラおかしいよな。
ウス！
笑え！
わはははは！　わはははは！
やめ！
ウス！
どうだ、こんなに笑い者になってるぞ！
あんたが笑えって命令したじゃない。
阿波踊りですって！　じゃあ、あんたたちは何よ。
人数がいれば、いいってもんじゃないわよ。
応援団って、もっとがっちりした人達がやるもんよ。
そうよ、弱々しいのばっかり集まっちゃって。
応援団じゃなくて、モヤシ栽培集団
どっしりとしたのも居るぞ。
だったら、ひ弱なダルマの勢ぞろいじゃない。
どう言う意味だよ。
見かけだけで中身は空っぽってことよ。
誰がダルマだ！
（指を指しながら）あんたよ。
おっしゃる通りです。
納得するな。
ウス！
伝統が何年か知らないけど、運動部から頼まれて応援に行っているのは、チアガール部じゃない。
野球部をはじめ、バスケだって、バレーだって、頼みに来るのは、いつもチアガール部よ。
応援団なんて、声が掛からないじゃない。
あんたたちを見捨てないのは、野球部だけよ。
野球部は人がいいからね。
ふざけるな！俺たちはちゃんと他の部にも応援に行っている。な！
ウス！

智美	どこ行っているって言うの。
平田	将棋部。
優作	かるた部。
貴裕	天体観測同好会。
団長	他にもいっぱい、引く手あまた。
由紀	何それ。みんな文化部じゃない。
愛	文化部で応援するの？
雄太	そうだ。
梨加	将棋部なんて、どうやって応援するの？
	・阿部、雄太　座る。
和秀	2、六、銀。
渡辺	3、六、歩。
和秀	4、五、飛車成。
雄太	うーむ。
応援団員	うーむ。
渡辺	3、五、桂馬。王手！
応援団員	（パチパチパチ）よし！
団長	やめ！
応援団員	ウス！
団長	いかなる時も、応援が必要だ。どうだ、まいったか。
千紘	それが応援？
優作	素敵な応援だ。
千紘	本当に頼まれて行ってるの？
優作	押しかけてる。
応援団員	（足で）ドン！
優作	ウス！
リーダー	崇晃。近頃応援団が、いろんなところに押しかけて応援してるって、本当だったのね
智美	頼まれてもいないのに、応援に行くなんて、あんたたち恥ずかしくないの？
由紀	それも文化部ばっかり。
梨加	しょうがないわよ。だって運動部から全然お呼びが掛からないんだもん。

知里	この汗臭さ、野暮ったさ。
あゆみ	ウォーウォー言ってて、うるさいだけ。
リーダー	これじゃあ声が掛からないのも、無理は無いはね。
団長	頼まれて応援するんじゃない。応援したいから応援するんだ。応援は・・・応援は心だ！
応援団員	団長！
団長	泣くな！
応援団員	うぇーん（泣く）
団長	笑え！
応援団員	あはははは！
団長	やめ！　どうだ、この団結力。
智美	馬鹿の勢ぞろい。
由紀	アホの軍団。
梨加	たわけのオールスター。
リーダー	笑え！
チアガール達	あはははは！　あはははは！　馬鹿！
リーダー	団結力はうちの方が上ね。
応援団員	何だと！（等）
	・入り混じってけんか。そこへ野球部の武田と成瀬が登場。
成瀬	（太鼓をたたく）ドン！
武田	けんかは止めようよ。
団長	武田！
リーダー	ちょっと武田君聞いてよ！
梨加	応援団たらひどいのよ。
貴彦	チアガール部は、もっとひどいんです。
智美	何いってんのよ、あんたたち。
武田	止めようよ。またけんかだろ。
チアガール達	そうよ。
応援団員	そうです。
成瀬	何でお前たち、けんかばっかりするんだよ。
武田	練習している横で、けんかが始まっちゃ、練習にならないよ
団長	すまなかったな。実は茜たちが、俺たちの練習の邪

リーダー　魔しに来たんだ。
武田　冗談じゃない。崇晃達がチアガール部の練習場所を、勝手に使っていたのよ。だから・・・
成瀬　わかった、わかった。お前たち両方とも、同じ応援のためのクラブじゃないか。それがいがみ合っていてどうするんだよ。
副団長　これじゃあ応援どころか、俺たちの足を引っ張ってるよ。
由紀　チアガール部が無くなれば、問題無いんだよ。
主征　消えて無くなるのは、応援団よ。
千紘　応援団を馬鹿にするな！
成瀬　チアガール部を馬鹿にしないでよ。
武田　うちの学校だけだぞ、試合の最中に応援団とチアガール部がけんかをして、しっちゃかめっちゃかになっちゃうの。
成瀬　俺なんか、マウンドに立っていても、相手の選手を見ているより、応援団とチアガールのけんかが気になって、そっちばかり見ているんだぞ。
団長　野球部の試合では、グランドより応援席のほうが目立つもんな。
リーダー　いやー照れるな。
武田　ほんとに馬鹿！
リーダー　なあお前たち。どうせ応援するんだったら、今年こそは仲良くやってくれよ。茜、崇晃、俺たち小学校から、みんな一緒じゃないか。いつからこうなっちまったんだよ。
武田　小学校のときからよ。
団長　そうだったな。
武田　お前いったい何が言いたいんだよ。
成瀬　夏の大会も近いことだし、二つの部が協力して、野球部を応援して欲しいってことだよ。
松原　俺たちの足を引っ張るなら、今年は応援してくれなくてもいいぞ。
先輩、それはどう言う意味ですか？

成瀬　野球部は野球部だけでやるってことだよ。
団長　成瀬、けんか売ってるのか。
リーダー　やめなさいよ、崇晃。カッとなるのは悪い癖よ。
武田　成瀬、それは言い過ぎだ。　俺たちも一生懸命やるから、みんなで俺たちを応援して欲しいんだ。俺はお前たちと一緒に甲子園に行きたいんだ。
梨加　甲子園？　いつも一回戦で負けてるあんたたちが？
武田　そこを突かれると、俺も痛い。
成瀬　去年までは俺達が補欠だったけど、今年のエースは武田だ。
全員　おー。
成瀬　そしてキャッチャーは俺。
全員　ふーん。
成瀬　どういう意味だよ！
武田　確かに今年は控えのピッチャーもいないし、ぎりぎりのところでやっている。だけど、思いは去年以上にある。いつも一回戦で負けていた俺たちが、今年こそは甲子園に行こうと思っている。
智美　夢ね。
由紀　遠い夢。
梨加　夢だけはホームラン。
武田　夢かもしれない。でも、夢を見ずして思いは遂げられない。みんながひとつになれば、きっとその夢はかなえることができる。みんな、力を貸してくれないか？
全員　・・・・
武田　どうだ、応援団の一年。
応援団　（小さく）ウス。
武田　どうだ、チアガール部の一二年。
チアガール部　（小さく）はい。
武田　頼むよ。崇晃、茜。
二人　・・・・・
団長　応援団　整列！　駆け足用意　進め！
・駆け足で応援団行ってしまう。団長は残ってい

武田　る。
団長　崇晃。
　ちんたらちんたらした、チアガール部と一緒にやってられねえよ。
　・団長　去る。
佳苗　ひどい人たちですね。
愛　武田先輩の話も聞いてあげないなんて。
リーダー　崇晃は、恥ずかしがりやなのよ。
望美　そうなんですか。
由紀　茜、あんた何崇晃の肩持ってんのよ。
リーダー　昔からいつもああなのよ。
智美　崇晃に気でもあんの？
リーダー　何言ってるの！　さあ練習続けるわよ。滝高～ファイト！
チアガール部　オー！
リーダー　ファイト！
チアガール部　オー！
　・チアガール部　走りながら去る。
成瀬　武田、前途多難だな。
武田　小学校の頃からああだもん。仕方ないよ。
成瀬　やっぱり。
武田　運動会の二人三脚で、紐引きちぎって走っちまうような奴らだからな。
成瀬　俺達みたいな息の合ったコンビなら、二人三脚も全国大会なみなのにな。
武田　（二人三脚の真似をしながら）野球部～　ファイト！
成瀬　オー！
武田　ファイト！
成瀬　オー！
武田　ファイト！
成瀬　オー！
智美　・智美　入ってくる。
　ボンボン落としちゃった・・・・（肩を寄せ合う二人を見て）あ、ごめん。
武田・成瀬　違う違う！
　・照明　F・O
英明　・客席にピンスポットライトがつく。応援団員二人が走ってくる。
主征　もう嫌だ。
英明　英明。
主征　もう僕、応援団についていけない。
英明　あきらめるなよ。
主征　毎日毎日、先輩の無茶苦茶な命令に従うのは、もうごめんだ。
英明　確かに、応援団は練習きついし、先輩の命令は絶対だもんな。
主征　そうだろ。僕たちはもっと学生時代をエンジョイしなくちゃ。
英明　でも、応援団辞めてどうするんだよ。
主征　チアガール部に入る。
英明　チアガール部？
主征　あそこなら、もっとましな応援をさせてくれるはずだ。いや、きっともっとかっこいい応援ができるよ。
英明　チアガール部なら、無茶な命令やきつい練習もないよな。
主征　だろう。お前も一緒に来いよ。
英明　うん。
主征　女の子ばかりだから目立つぞ、僕たち。
英明　そうだな。
主征　僕たちはチアガール部で、ジャニーズ見たいにかっこよく踊るんだ。
英明　ジャニーズか。
主征　そうだよ。女の子をキャーキャー言わそうぜ。
　・・・わかった。俺も応援団辞めて、チアガール部

英明　に行くよ。
主征　主征。
　チアガール部なら、あの練習だけはしなくて済むもんな。
英明　そう、あの練習だけはもうごめんだ。
主征　応援団なんて嫌いだ。
英明　大嫌いだ。
二人　応援団のバカヤロー。
　・二人　走り去る。

副団長　・応援団員が上半身裸で、曲に合わせてトレーニングをしている。
団員　よし！応援団体操やめ！　これより全員、運動場二十周。
副団長　ウス！
団員　ただし、今日遅刻した者、この場に残れ！　駆け足用意！　前へ進め！
副団長　イチニ・・。イチニ・・。
　・渡辺、阿部、雄太、優作、貴彦、和秀　を残して、応援団員去る。
副団長　お前ら、何で遅刻した？
団員　遅れたからであります。
副団長　それは当たり前だ。その、理由を聞いているんだ。
渡辺　日直でした。
優作　掃除でした。
阿部　靴が片方ありませんでした。
副団長　どういう理由であれ、遅刻するということは、精神がたるんでる証拠だ。よってこの副団長自ら、特別訓練としてイメージトレーニングを行う。
団員　ウス！　ありがとうございます。
副団長　その前に、何だこの並び方は。いつも言っているだろ、秩序ある並び方をしろと。　並びなおせ!
団員　ウス！

副団長　・六人　阿部を先頭に並ぶ。
和秀　何だ、この並び方は？
副団長　ウス！食べ物の好き嫌い順であります。
阿部　(阿部に)お前が先頭か。
副団長　ウス!自分は何でも頂きます。
団員　給食のよい子ちゃんを選んでるんじゃないぞ。応援団に食い物の好き嫌いが関係あるか。並びなおし！
副団長　ウス！
　・六人　並び変わるが、貴彦は雄太の後ろにつき、優作は一人離れて並ぶ。
渡辺　これは何だ？
副団長　ウス！今日のテストの成績順です。
貴彦　貴彦、何で雄太の後ろにいるんだ？
雄太　ウス！雄太のテストをカンニングしました。
副団長　うそ！
優作　優作、何で列から離れている。
副団長　ウス！自分は今回不合格でありました。
団員　こんな並び方で応援できるか。並びなおし！
副団長　ウス！
　・六人並び変わる。
雄太　今度は何だ？
副団長　ウス！産まれた誕生日順に・・・
団員　わかった、もういい！何でお前達はそんなくだらない並び方を、次から次へと考え出すんだ。背の順でいいだろ、背の順で。
副団長　なるほど。
　なるほどじゃない。並びなおせ！
団員　ウス！
副団長　・六人　背の順に並ぶ。
　いいか、そんなくだらないことするぐらいなら、もっと応援に熱を入れろ。
団員　ウス！
副団長　お前達に足らないのは、応援に対する情熱だ。
渡辺　情熱ですか。

副団長　そうだ。愛情といってもいい。お前達の応援には、愛がこもっていないんだ。
団員　ウス！
副団長　いいか、応援団は思いやりが無ければ駄目だ。見ろ！あそこに捨て猫がいるとする。お前達は誠意を持って、その捨て猫に接してみろ！
団員　ウス！
・六人　下手前へ駆け寄る。
貴彦　こんな所に捨て猫が。
優作　なんてかわいそうな。
阿部　よしよし、ミルクをあげようね。
渡辺　それにしても、可愛い子だね。
和秀　僕の家に来るかい。
雄太　可愛がってあげるよ。
副団長　駄目だ！まだまだ愛が足りない。
団員　ウス！
副団長　（上手前を指差し）見ろ、あっちには迷子の子供が泣いているぞ！
団員　ウス！
・六人　上手前へ駆け寄る。
貴彦　こんな所に迷子の子供が。
優作　なんてかわいそうな。
阿部　よしよし、キャンディーをあげようね。
渡辺　それにしても可愛い子だね。
和秀　僕の家に来るかい。
雄太　可愛がってあげるよ。
副団長　駄目だ。もっと迸る愛が欲しい。（センター前を指差し）あっちには、荷物を持ったおばあさんが居るぞ。
団員　ウス！
・六人　センター前へ駆け寄る。
貴彦　こんな所におばあさんが。
優作　なんてかわいそうな。
阿部　よしよし、荷物を持ってあげようね。
渡辺　それにしても可愛い子だね。
和秀　僕の家に来るかい。
雄太　可愛がってあげるよ。
副団長　お前達の応援にも、だいぶ愛情が生まれてきたな。
団員　ウス！　ありがとうございます。
・団長　登場
団長　お、一年生。頑張ってるな。
六人　ウス！
団長　フム。
副団長　団長、どうだった。部長会議は？
団長　またいつものけんかだよ。どうして運動部の連中は、チアガール部ばかりに要請を掛けるんだ、ってね。
副団長　応援に行けないんじゃ、肩身狭いよな。
団長　全くだ。他の連中は？
副団長　筋力トレーニング。
副団長　こいつらは？
団長　イメージトレーニング。
副団長　イメージトレーニングか。応援団は体力だけでなく、精神面でも鍛えなきゃな。よし、続きは俺がやろう。
団員　ウス！　ありがとうございます。
団長　よし、お前ら「松の木」になれ。
団員　え？
副団長　何やってんだよ、「松の木」だよ。
団長　応援は団体競技だ。みんなが一つになってこそ、応援ができるんだ。六人で「松の木」になれ。
副団長　早くやれ！
団員　ウス！
・団員　松の木のポーズ。
団長　何だこれは？
渡辺　「松の木」です。

団長　お前はどこの部分だ？
雄太　真ん中の幹です。
団長　何で一番小さいお前が、幹なんだ。
副団長　お前は何だ？
阿部　細い小枝です。
団長　こんな太い枝の先があるか。　やめ！
団員　ウス！
団長　・団員　整列。
団員　いいか、お互い協力し合ってこそ、いい応援ができるんだ。自分の役割をよく把握しろ。
団員　ウス！
団員　よし！　次は、巨大ナメクジ！
団員　ウス！
団長　・団員　巨大ナメクジのポーズ。
貴彦　お前は何だ？
副団長　ナメクジの触覚です。
優作　お前は？
団長　ナメクジの通った後の、ヌメヌメです。
武田　いいぞ、いい調子だ。よし、そのまま続けろ！
団長　・団員　「ナメナメ」いいながらポーズを続ける。
武田　そこへ、武田と成瀬が登場。
成瀬　崇晃。
武田　よお！　野球部の練習は終わったのか？
副団長　ああ、今終わった。こいつら何やってんだ？
成瀬　毎年恒例の特訓さ。
副団長　あんまり一年生をいじめるなよ。
団長　俺達も一年のとき、やらされたんだぜ。
武田　それよりさ、野球部のほうはどうなんだ？
成瀬　ああ、みんな頑張っている。俺の肩も調子いい。
武田　武田がいるんだ。
団長　今年こそは、絶対甲子園に行ってみせる。
副団長　期待してるよ。俺達応援団も、一緒に行くからな。
成瀬　チアガール部に、応援取られてたまるかよ。
武田　そうけんか腰になるなよ。
成瀬　成瀬、帰ろうか。
武田　おう！
団長　崇晃、またな。
由紀　じゃあな。
武田　・武田と成瀬　歩き始める。　そこへ、チアガール部の由紀が、通りかかる。
由紀　武田君、頑張ってる。
武田　おう！
由紀　またね。
由紀　・武田と成瀬　去る。
由紀　（巨大ナメクジのポーズを見て）またいつもの変な練習？　ばっかみたい。
団長　巨大ナメクジ　大逆襲！
団員　（由紀を追いながら）ナメナメナメ・・・
由紀　キャー。
由紀　・由紀去る。そこへ平田が慌てた様子で入ってくる。
平田　団長！団～長!　主征と英明が、チアガール部に入部しました！
団長　何！　全員　ついて来い！
団員　（団長について行きながら）ナメナメナメナメ・・
団員　・応援団　去る。
団員　・照明　F・O
梨加　・梨加が中心となって、チアガール部の練習をしている。その中には、応援団から流れてきた男子二人が、一緒になって練習している。
梨加　もっと足を高く！　笑顔を絶やさない！　男子二人、なかなかいいわよ！（等）
千紘　・千紘転ぶ。
梨加　千紘！
千紘　すいません
梨加　すいませんじゃないでしょ。どうしてもっと優雅に

英明・主征　転べないの？
梨加　へ？
　この前教えたばかりでしょ。転ぶときは、足は内股、笑顔は絶やさず、腰のひねりは七十五度。やってみなさい。
千紘　はい。（転びなおす）
梨加　だめ、基本が全然なってないわ。みんなもやってみなさい。
全員　はい！
梨加　転べ！
　・一生懸命倒れるチアガール部員たち。男子もまねをする。
梨加　愛、腰にひねりが足りないわ。望美、もっとしなをつくって。かなえ、何その笑顔、それじゃあ男は誘惑できないわよ。もっと、声を高く、もっと・・もっと・・。
　・チアガール部員達は、指示に従っている。
梨加　立ちなさい。
　・みんな立ち上げるが、千紘だけ立ちあがらない。
梨加　どうしたの？
千紘　先輩、もう私できません。私、チアガール部辞めます。
愛　私も。
佳苗　私も。
望美　みんなが辞めるなら、私も辞めます。
　・梨加、一年を順番ににらむ。最後に男子をにらむ。おびえて首を振る男子。
梨加　どういうこと？
千紘　もう私、チアガール部についていけません。
愛　毎日毎日、先輩の無茶な命令に従うのはもういや。
佳苗　練習きついし。
望美　私たち、もっと学生時代をエンジョイしたいんです。
主征　どっかで聞いた言葉だな。

英明　ああ。
梨加　わかったわ。あなたたちがそこまで言うなら、私もう止めない。いいわよ、行っても。どこへでも行きなさい！
チアガール一年生　失礼します。
　・一年生たち、立ち去ろうとする。
梨加　待ちなさい。今ここで逃げて、あなたたちは本当に満足なの？
主征　止めないんじゃなかったんですか。
梨加　お黙り！苦しいことから逃げちゃだめ。苦しいこと、つらい仕打ちに耐えてこそ青春なんじゃない。
英明　つらいのは、先輩の仕打ちだよな・・・。
梨加　そう、私はあなたたちを一人前にするために、敢えてつらく当たるのよ。ほら見て、あの夕日を。
　・全員　梨加の指差す上手のほうへ集まる。
梨加　どんな時でも、あの夕日は私たちに笑顔を向けてくれる。なのにあなたたちは、あの夕日から逃げようとしている。
千紘　先輩。
梨加　夕日から逃げちゃだめ。どんなことがあっても、自分のベストを尽くさなきゃ。
千紘　先輩、すいませんでした。私、チアガール部やっぱり続けます。
愛　私も辞めません。
佳苗　どんな仕打ちにも耐えます。
望美　私達が間違っていました。
梨加　じゃあ、やめないで続けるのね。
チアガール達　はい！
梨加　（豹変して）今、「はい」って言ったよね。「どんな仕打ちも耐える」って言ったよね。あんたたち、このチアガール部をなめるんじゃないわよ。さ、練習始めるわ。さっさとお並び！
英明・主征　ひー。
梨加　ほら、ちんたらちんたら動かない。そんな動きじゃ

リーダー　男は落とせないわよ。始め！
梨加　・踊りの練習を再開する、そこへリーダー登場
リーダー　どう、梨加、一年生うまくできてる？
梨加　あ、茜、聞いてよ。今一年生ったらね、練習がきついって愚痴こぼすのよ。
リーダー　え？
梨加　私が何とか優しく説得して収まったけど、大変だったんだから。
リーダー　ふーん。それはそうと、何この二人？
梨加　あの子達、応援団辞めて、チアガール部に入りたいんだって。
リーダー　入りたいって・・、梨加　それ認めたの？
梨加　うん、来るもの拒まず。去るもの逃がさずよ。　やめ！　新入部員。
英明・主征　はい！
梨加　あいさつ！
英明・主征　どうも。
リーダー　あんたたちチアガール部に入るなんて、よく崇晃が許したわね。
英明・主征　・・・・・。
リーダー　もしかして、団長の許可なしでこっちにきたの？
英明・主征　はあ・・・。
リーダー　まずいんじゃない？
梨加　大丈夫よ、崇晃なんて。
智美　・智美、知里、あゆみが掛け込んで来る。
知里　茜！　応援団の連中が血相変えてこっちに来るよ。
あゆみ　先輩、何かあったんですか。
全員　みんな、凄い顔をしています。
団長　来た！
リーダー　・応援団　登場
副団長　茜、うちの一年を引っ張り込むとは、どういうことだよ。
智美　知らないわよ、私も今来たところなんだから。
リーダー　お前らが、あいつらをたぶらかしたんだろ。
智美　失礼なことを言わないでよ。
リーダー　チアガール部は男をたらしこんだりしません。ね、梨加。
梨加　そうよ、応援団が嫌だから、こっちに入らせてくれって、泣きついてきたのは、この子達のほうよ。
応援団　何だと！
平田　英明、主征、どういうことだよ。
貴彦　お前ら、何をしているのかわかってるのか。
団長　英明、主征、お前ら部室に帰って特訓だ。　行くぞ！
リーダー　・応援団　引き上げ始める。
副団長　ちょっと待ちなさいよ。何勝手に連れて行こうとしてるの？
リーダー　こいつらは、うちの部員だ。
智美　さっきまではね。でも、今はチアガール部の練習に参加しているんだから、チアガール部員よ。
副団長　茜・・。
英明・主征　お前ら応援団を辞める気か？
梨加　はあ・・。
英明・主征　チアガール部に入るんじゃなかったの？
梨加　はあ・・。
英明・主征　応援団に戻ってこいよ。
阿部　う、うん・・。
英明・主征　やめちゃいなさいよ、あんな部。
千紘　う、うん・・。
英明・主征　どっちなんだ！
団長　まるで脅しね。
智美　何だと！
大寛　今のままで戻っても、また同じことに繰り返しよ。
リーダー　そんなこと、お前らには関係ないだろ。
渡辺　部外者は黙ってろ！
松原　よく言うわよ。どうせ無茶苦茶な命令したり、馬鹿
梨加　なトレーニングするだけじゃない。
智美　ほら、応援団って間抜け集団だから。

リーダー　長年のアホの伝統が積み重なってきたからね。
侑　さっきから聞いてりゃ、言いたい放題言ってくれるよな。
貴彦　今まで女だと思って手加減していれば、いい気になりやがって。
誠太郎　俺達が本気でやったらどうなるか、見せてやる。
智美　本気？　やれるもんなら、やってみなさいよ。
リーダー　こっちも手加減しないわよ。
梨加　一年生、不満はこいつらにぶつけてやりな。
チアガール一年生　はい！
団長　かかれ！
応援団　おう！
・応援団、チアガール部　入り乱れての乱闘となる。
・照明　F・O
・散乱するボンボンの中、梨加　頬に手をやり、座っている。ボンボンを片付ける千紘。そこへ　由紀が登場。
由紀　ただいま。もう練習終わった？
千紘　あ、由紀先輩、お帰りなさい。
由紀　（梨加を見て）どうしたの、そのほっぺ。
梨加　けんかよ。
由紀　また。今度は誰？柔道部、それともどっかの格闘家？
梨加　人を道場破りみたいに言わないでよ。
由紀　冗談よ。
千紘　応援団が殴りこみに来たんです。
由紀　この前の仕返し？
千紘　いいえ、男子の取り合いで。
由紀　梨加、あんた応援団の男にも手を出したの？
梨加　「男にも」って何よ。それより、由紀　今までどこ行ってたの？
由紀　茜の代理で、応援の打ち合わせ。
梨加　あ、そうだったね。
由紀　そういえば聞いた？　野球部、今年は相当がんばってるみたいよ。
千紘　試合、近いですからね。
梨加　夢の甲子園目指すのも大変ね。
由紀　それが、今年はまんざら夢でもなさそうよ。
千紘　どうしてですか？
由紀　武田君よ。
梨加　どういう事？
由紀　あれ、茜から聞いてないの？　武田君、昔少年野球で全国大会まで行ったことがあるんだって。
千紘　あの武田先輩が？
梨加　人は見かけに寄らないものね。
由紀　ピッチャーで大活躍したんだって。
千紘　でも、そんな凄いピッチャーがいたのに、何で今まで
由紀　うちの野球部は一回戦止まりだったんですか？
梨加　あの子、人がいいでしょ。去年も一昨年も先輩に遠慮して、黙って補欠になっていたんだって。
由紀　それじゃあ、単なるお人よしよ。
梨加　まあね。でも、今年はあの子も最後の年じゃない。
由紀　今年こそはって誰よりも遅くまで練習してるんだって。
千紘　ふーん。
梨加　キャッチャーの成瀬君がね、武田はチーム全体の責任を背負ったような球を投げるって言ってた。
由紀　責任感の強いお人好し、ですか。
千紘　ま、武田君らしいわね。
梨加　黙々と練習する姿見てたら、私達も応援頑張らなきゃって気になるわよ。
由紀　そうですね。
千紘　でもさ、武田君ってあの応援団の崇晃と幼馴染でしょ。どうも応援団に肩持ってる気がするのよね。
梨加　うちの茜先輩も武田先輩と幼馴染なんですよね。
千紘

由紀　そうよ。私達も応援団も条件は一緒よ。それに私達は、応援する人と仲が良いから応援するわけじゃないでしょ。同じ学校の仲間だから応援するんじゃない。

梨加　同じ学校の仲間か。

由紀　そう。一生懸命頑張っている同じ仲間。

梨加　そうね、何だかんだ言っても、頑張っている人達の応援がしたくて、私達チアガール部に入ったんだもんね。

由紀・千紘　うん。

梨加　でも、あの応援団は仲間じゃない。

由紀　また、すぐそんなこと言う。

梨加　あいつらの、人を小馬鹿にした態度だけは、許せないのよ。ああ、もう思い出しただけで、はらわたが煮え繰り返ってくるわ。

由紀　梨加。

千紘　さっき、凄かったんですよ、梨加先輩。応援団の一年生なんか、股蹴られてヒーヒー言っていたんですから。

梨加　何言ってるのよ。あんただってあいつらの顔、ひっかきまわってたじゃない。

千紘　ひどい。私そこまでしていませんよ。ただ持ち上げて、投げ飛ばしただけです。

由紀　一体、どんなけんかしてたのよ？

梨加　手加減しないで、もっとギッタギッタにしてやればよかった。

千紘　あれ、本気でケンカしてたんじゃなかったんですか？

梨加　何言ってるのよ。男相手に本気出せるわけないでしょ。

由紀　ところで、他のみんなは？

千紘　保健室に行っています。

由紀　大丈夫？　相当派手にやらかしたわね。で、応援団の連中は？

梨加　救急車で運ばれて病院よ。

由紀　え？

梨加・千紘　よし！ザマー見ろ！あはははは・・（ガッツポーズとともに高笑い）

・照明　F・O

・応援団の練習場所。怪我をした応援団員とそれを見に来た野球部員二人が居る。

団長　いってえ・・。

成瀬　ばっかだなあ、お前達は。みのほど知らずとは、こういうこと言うんだよ。

貴彦　でも先輩、チアガール部のやつら、ギッタギタにしてやりましたよ。

阿部　あいつらの、人を小馬鹿にした態度だけは許せません。

松原　思い出しただけで、はらわたが煮え繰り返ります。

和秀　でも先輩、凄かったんですよ。酒井なんか、あいつらの顔ひっかきまわしていました。

雄太　ひどい、私そこまでしていません。

大寛　ただ持ち上げて、投げ飛ばされただけですよ、こいつ。

雄太　それは言わない約束でしょ。

成瀬　な、だからチアガール部にかなうわけないんだよ。

団長　女相手に本気出せるわけ無いだろ。

成瀬　本気出したら勝つのかよ。

応援団員　ウス！

成瀬　本当だな！

応援団員　いたたたた・・・。

武田　最近の女は強いからな。

成瀬　お前達がケンカをしたと聞いて、真っ先にこっちに掛けつけてきたんだよ。

副団長　どういう意味だよ。

成瀬　きっとお前達のほうが、被害状況が大きいと思って

応援団員　さ。
武田　（拍手五回）正解！
団長　崇晃、応援団もチアガール部も、いつになったら俺達をちゃんと応援してくれるんだ。
副団長　やってるよ、俺達は。
武田　俺達は俺達のやり方で。
副団長　誰を？
武田　野球部を。
副団長　チアガール部も俺達を応援してくれてるんだよ。
武田　あいつらのやり方でな。
副団長　いい加減にしろよ。俺達は、応援団とチアガール部が一緒になって応援してくれるのを、期待しているんだ。今の野球部は応援団より部員が少ない。でも、お前達より必死になって野球に打ち込んでいるんだ。こんな少ない人数でも、甲子園という夢にかけてな。
武田　俺たちだって一緒に行くつもりだよ。
団長　チアガール部も、一緒がいいんだよ。
武田　冗談じゃねえ。
団長　崇晃、なに意地張ってんだよ。
成瀬　意地じゃねえよ。
応援団一年生　一年、お前らそんなにチアガール部が嫌いか？
団長　（首を横に振る。）
武田　成瀬！　何一年に余計なこと聞いてんだよ。
団長　崇晃、カッカするな。
成瀬　お前達に、応援団の気持ちがわかってたまるか。
団長　崇晃、・・・
貴彦　うるせえ！
団長　・茜＋主征・英明　登場！
副団長　あ、茜先輩！
リーダー　何の用だよ。謝りに来たか？
団長　三つ指突いても許しは・・・。
リーダー　（茜は足でドン！　応援団　ビク！）
成瀬　この二人、返すわ。
団長　どういうことだよ。反省して返しに来たか？
リーダー　この二人、やっぱりチアガール部では無理ね。
団長　何？
リーダー　もうちょっと、しっかりとした根性を持たないと、チアガール部にはついて来れないの。
団長　応援団の一年は、チアガール部では落ちこぼれか。
リーダー　そう言うこと。
応援団員　茜！
武田　（足を鳴らす。）
主征・英明　待てよ。だったらその一年、お前が鍛えればいいじゃないか。落ちこぼれだろうと何だろうと。　お前達、戻ってきたかったんだろ。
武田　はい。
主征・英明　戻って来たい者は、崇晃　お前が鍛えりゃいいじゃないか。
団長　お前達、応援団でやれるか。
主征・英明　はい。
団長　チアガール部で落ちこぼれと言われれば、練習は更にきついぞ！
主征・英明　はい。
団長　「はい」じゃなくて「ウス！」だ。
主征・英明　ウス！
団長　よし、お前達、二度と離さないからな。
主征・英明　ウス！
団長　よーし、全員整列！
団員　ウス！
団長　うさぎ跳び用意、前へ進め！
団員　イチニ・イチニ・・・。
団長　・応援団員が去り、残される四人
リーダー　茜。
成瀬　何よ。
団長　迷惑掛けたな。
リーダー　もう、これっきりにしてよ。
成瀬　いつまでそうやって突っ張っているのかね、二人

リーダー　は。
成瀬　何が言いたいの？
別に。お前ら二人がいがみあってちゃ、チアガール部と応援団は、いつまでたっても一緒になって応援できないよ。　武田、先行ってるぞ。
武田　オウ！
武田　・成瀬　去る。リーダーと団長　上下へ離れる。
何でこんなに、お前達の距離って遠いんだ？昔からずっと一緒だったのに、どうしてこんなに離れているんだ。崇晃、茜・・・。　わかった。お前達二人、本当は好き同士なんだろ。
リーダー　何言ってんのよ。
団長　ふざけたこといってんな。
リーダー　何でこんなやつ好きになんなくちゃいけないのよ。
団長　こんなやつとはなんだよ。
リーダー　こんなやつだから、こんなやつよ。
団長　バカヤロー！
武田　一緒に応援してくれよ。
・団長　リーダー　ちょっと離れる。
団長　武田、やっぱり無理だよ。応援団とチアガール部のケンカって言ってるけど、下手をすると俺と茜のケンカかもしれない。
武田　何で？
団長　茜がむきになればなるほど、頭くるんだよ。
リーダー　ほらね。崇晃は何を怒ってるのか、わかってないのよ。感情むき出しの、ただの馬鹿ね。
団長　馬鹿とは何だよ！部員の少ないチアガール部が偉そうなこと言うな！
リーダー　そうよね、確かにうちはあんたのところよりは少ないわ。でも、応援団は、三年生の団長のあんたと副団長の二人、あとは無理やり引き込んだ一年生じゃない。二年生はどうしたの、二年生は。去年あんなにたくさん入れた二年生はどうしたのよ。
団長　みんな辞めさせたよ。

リーダー　逃げたんでしょ。あんたのやり方が嫌で、みんな逃げたんでしょ。
団長　ああ、逃げたよ。根性の無い奴ら、みんな逃げ出したよ。じゃあお前のところはどうなんだよ。最初から、誰も入って来ねえじゃないか。
リーダー　いつか、みんな入ってくれるわ。このチアガール部が素敵だと思って、いっぱいいっぱい入ってくれるわ。私達はそれを信じて、みんな一生懸命やっているのよ。私は、あんたみたいに自分だけのためにクラブを作ろうとしていないわ。みんなと一緒にこのクラブを作りたいし、そういう人間だからこそ応援できるんじゃない。
団長　俺達応援団はなあ・・。
リーダー　俺達俺達って、誰のための応援団よ。
団長　・・・・・。
武田　俺たち野球部のための、応援団だよな。
団長　・・・・うん。
武田　俺たち運動部のための、応援団だよな。
団長　・・・・うん。
武田　一生懸命やってるやつ、全ての応援団だよな。
団長　・・・・うん。
リーダー　そういう気持ちが最初からあれば、みんなあんたと一緒に応援したくなるのよ。
武田　茜、お前たちは俺たちを応援してくれるよな。
リーダー　うん。
武田　一生懸命やっている俺たちを応援してくれるよな。
リーダー　うん。
武田　一生懸命やっている応援団を応援してくれるよな。
団長・リーダー　・・・うん。
崇晃・・、茜・・、　応援団とチアガール部が一緒になった応援の中で、俺たちは甲子園に行きたい。
・遠い甲子園を見る武田。
うん。（武田と同じ方向を見る二人。）
・音響ブリッジ　ｉｎ

梨加　・照明　F・O
応援団員　・応援団・チアガール部が互いににらみ合っている。
智美　冗談じゃないわよ。
由紀　何だと！
梨加　何で私達が、あんたたちの太鼓に合わせて踊らなきゃならないのよ。
リーダー　そんなテンポじゃ踊れないわよ。
優作　大体、茜が頼むから、我慢して応援団と一緒に練習してるのよ。私はあんた達に合わせる気はないからね。
大寛　梨加、それは言い過ぎよ。
貴彦　それは、こっちの台詞だ。
阿部　何で俺達が、お前らの踊りに合わせて太鼓叩かなきゃいけないんだ。
副団長　そんなチャラチャラした踊りじゃあ、軽すぎるんだよ。
応援団員　こっちだって、団長の命令が無ければ、とっくに止めてる。
団長　団長、やっぱりチアガール部と一緒に応援するなんて無理だよ。
和秀　団長。
リーダー　だめだ、一緒に応援するんだ。
愛　団長。
佳苗　（チアガール部員に向かって）みんなも自分勝手なこと言わないで、一緒にやるのよ。
侑　茜先輩、どうしたんですか。この前まで真っ先に応援団を貶していたのは、先輩じゃないですか。
松原　あいつらがあの態度を改めない限り、私達応援できません。
由紀　あいつらとは何だよ。
梨加　あの態度とは何だよ。
誠太郎　その、人を上から見ている傲慢な態度の、あんた達のことよ。
梨加　大体あんた達、一年生の癖に生意気よ。
誠太郎　男の方が偉いんだ。
団長　何だって！
奨三　・・と、団長が言っていました。
千紘　訂正、男も女もみんな平等だ。
梨加　団長。
渡辺　あんた達のやり方は、一緒にやってるんじゃなくて、ただ命令しているだけでしょ。
宏　あんた達に命令される筋合いはないわ。
平田　冗談じゃない。こっちだって命令される筋合いはないね。
梨加　お前らこそ、その自分勝手な考え方、直せよ。
望美　チアガール部は、俺達の言う通りに動きゃいいんだよ。
和秀　何ですって！
智美　部長の手前、黙っていましたがもう許せません。
貴彦　何だよ、やる気かよ。
ケンカ売ってるの？
団長　ケンカならいつでも買ってやるよ！
リーダー　・互いに今にもつかみかかりそうな勢い。とめる団長と部長。
成瀬　やめろ！
団長　みんな。
リーダー　・成瀬が走って登場する。
成瀬　崇晃！
団長　お、おう！成瀬か。どうした？
リーダー　ちょっと今日はバタバタしてるけど、試合までには二つの部で合わせるから・・・。
成瀬　もういいんだ。
団長　何？
成瀬　もう応援団もチアガール部も、応援しなくていい。
リーダー　それ、どういうことよ。

成瀬　武田が怪我をした。
全員　えっ！
成瀬　練習中にバットが飛んできて、避けきれなくて、武田の左腕に当たって・・・。
リーダー　今、武田君は？
成瀬　病院に運ばれて・・。
団長　怪我は！　怪我の様子は？
成瀬　左手首の骨折で、全治三週間。
団長　畜生！
成瀬　試合まで後一週間、とても無理だ。
梨加　で・、でも怪我をしたのは武田君だけでしょ。だったら他の子がピッチャーやればいいじゃない。
成瀬　駄目だ。うちは人数ギリギリだし、それに武田がここまで引っ張ってきたから、みんなついて来たんだ。武田なしでは今更試合なんてできない。
大寛　俺達、どうなるんですか。
智美　試合が無いんじゃあ、どうしようもないわね。
主征　やっと運動部の応援ができると思ったのに。
副団長　馬鹿野郎、そういう問題じゃないだろ。
梨加　茜、どうするの？武田君怪我して、野球部が試合に出ないって言うんじゃ、合同練習しても無意味よ。
成瀬　・武田が、左腕を包帯で吊って入ってくる。
武田！
武田　・全員　武田を見つめる。
リーダー　茜、崇晃、心配掛けてごめん。
武田　怪我は？　大丈夫なの？
団長　うん、今病院から戻ったところだ。どうだ合同練習、進んでいるか？
武田　何言ってんだよ。試合なんてできっこないだろ。
全員　俺、試合に出るよ。
成瀬　ええっ！
武田　無茶だよ。怪我した手で、どうやって試合に出るんだよ。
大丈夫。利き腕の方は無事なんだし、何とかなるよ。
成瀬　何とかなるって、お前・・。
武田　今、他の部員には話をつけてきた。怪我した分、皆に迷惑掛けるけど試合には出させてくれって。左手がこうなった分、守りを皆に任すことになるけど、俺、このままあきらめたくないんだ。最後まで皆と一緒に試合に出たいんだ。成瀬、頼む、力を貸してくれ。
成瀬　武田・・。
武田　応援団もチアガール部もみんな聞いてくれ。こんなことになっちまったのは、全部自分の責任だ。みんなに迷惑かけたことは謝る。済まない。
団長　武田、お前・・。
武田　試合に出ても、良い結果は出せないかもしれない。お前達に恥をかかすかもしれない。でも、俺ではなく、他の頑張っている部員のためにも、応援してくれないか。茜、崇晃、頼む。
団長　・・・・。
リーダー　・・・・。
武田　俺、応援団とチアガール部が一緒になった応援の中で、試合がしたいんだ！
団長　・・・わかった。
リーダー　崇晃・・・。
団長　武田、応援は任せろ。お前とお前を支える野球部みんなのために、立派な応援をしてやる。
武田　崇晃・・・。
リーダー　武田君、無理しちゃ駄目よ。試合できないと思ったら、ちゃんと他の選手と代わるのよ。私達はみんなのための応援団なんだから。
武田　茜、ありがとう。
団長　成瀬。武田のこと、頼んだぞ。
成瀬　わかった。　武田、行こう。
武田　ああ。
・去り際に立ち止まり、皆に向かって深々と頭を下

げる武田。武田、成瀬は去る。

団長　みんな、俺は今まで自分の立場ばかり考え、つまらないことに意地を張っていた。今更俺の命令でついて来いなんて、偉そうに言えない。だけど、怪我をしても試合に出ようとしている武田の前で、一人の応援団員として、ちゃんとした応援がしてやりたい。

全員　・・・・。

団長　応援団の一年！

応援団員　ウス！

団長　頼む、俺と一緒に応援してくれ。

応援団員　ウス！

俺　俺、団長についていきます。

阿部　俺も、何でも言ってください。

雄太　俺達、みんなやりますから！

副団長　団長。みんな、お前に従うよ。

応援団員　ウス！

団長　わかった、みんな俺について来てくれるか？

応援団員　ウス！

団長　茜、チアガール部のみんな。今聞いての通りだ。俺達応援団は、今度の応援だけは成功させたいと思っている。だから、俺達に協力してくれないか。何でも言うことを聞く。だから、俺達と一緒にみんなで応援してくれ。

団長　・団長、土下座する。

団長　頼む。

副団長　・続いて副団長も土下座する。

団長　頼む。

応援団　・団長、副団長の姿を見て、一年の団員も全員土下座する。

リーダー　頼みます！

チアガール部員　頼みます！

団長　・応援団員　頭を下げる。

リーダー　頭上げてよ。さっき武田君に言ったでしょ。私達はみんなのための応援団なのよ。チアガール部も応援団も、全員揃ってみんなのための応援団。（チアガール部員に向かって）ねっ！

団長　うん！

リーダー　茜・・。

団長　早く立ちなさいよ。

リーダー　本当に一緒にやってくれるのか？

団長　当たり前じゃない。応援団もチアガール部もみんな、人を応援するための集まりじゃない。みんな一緒よ。

リーダー　うん。

応援団員　さ、練習始めるわよ。

智美　よし、合同練習開始だ！

団長　ウス！

梨加　ねえ、踊る曲どうする？

リーダー　俺達で考えるよ。

梨加　嫌よ。

全員　梨加。

副団長　みんなで応援するんでしょ。みんなで考えようよ。

応援団員太鼓係由紀　うん。

梨加　そうだな。よし、太鼓係、梨加達と応援の曲作れ。

松原　ウス！

梨加　テンポの良いの、作ってね。

応援団員太鼓係梨加　任せなさいよ。今まで見たことも無いような、曲や踊りを創ってあげるわ。

平田　梨加先輩、俺達踊り下手なんですけど・・。

団長　わかってるわよ。あんた達に合わせた踊りにしてあげるわ。応援団一年生、私について来なさい。

リーダー　ウス！

阿部　・梨加　応援団員数名とともに去る。

団長！服はどうしますか？

そうだな。やっぱり揃えなきゃまずいよな。

でも、全員紺の学生服じゃあ、目立たないわよ。

じゃあ、俺達がスカート履くんですか？

由紀　そんなわけ無いでしょ。いいわ、私が何とかしてあげる。
千紘　由紀先輩。それなら私達にやらせてください。
智美　あんた達、大丈夫？
望美　任せてください。
愛　私達だって、チアガール部の一員です。
団長　でも、あと一週間しかないぞ。
佳苗　できる限りのことはやってみます。
一年生女子　うん！
由紀　任したわ。
一年生女子　はい！
団長　よし！頼む。
副団長　一年生。人数分作るんだ。お前達もチアガール部に協力してやれ。
応援団員一年　ウス！
英明　俺、こう見えても裁縫得意なんだ。主征、お前は？
主征　趣味はパッチワーク。
千紘　頼もしいわね。
一年生男女　・全員　笑う。
副団長　じゃ、行こう！
千紘　うん！
由紀　・チアガール部、応援団の一年、全員去る。
智美　（見送って）いつも元気だな、あいつら。さてと、俺達は応援の準備だな。
副団長　学校側と打ち合わせもしなきゃね。
リーダー　先生にも相談しなきゃ。
団長　しかし、みんなびっくりするだろうな。応援団とチアガール部が一緒に応援したら。
智美　そうね。
由紀　驚くわよ、きっと。
リーダー　・副団長、由紀、智美　笑いながら去る。　残る崇晃、茜。
団長　崇晃。
リーダー　うん。
団長　やっと、みんなのために動いてくれるようになったわね。
リーダー　ああ。
団長　今のあんたなら、みんな一生懸命ついてきてくれるよ。
リーダー　茜。
団長　何？
リーダー　・・・今日の俺・・かっこいいか？
あゆみ　・・・馬鹿。
知里　・照明　F・O
あゆみ　・ピンスポットライトが客席通路を照らす。あゆみが客席後方から通路を走ってくる。遅れて知里も走ってくる。
知里　ほら、急ぎなさいよ。チアガール部も応援団も、もう球場に着いているわよ。
あゆみ　ちょっと待ってよ。私のほうが荷物重いんだから。
知里　ね、少し休ませてよ。
あゆみ　しょうがないわね。
知里　大体、あんたが寝坊して集合時間に遅れたのが悪いんでしょ。
あゆみ　あんただって、昨日　間違えた時間、私に教えたじゃない。
知里　間抜けなのよ、私達。
あゆみ　そうよ、どうせ私達は大間抜けよ。
知里　ちょっと待ちなさいよ。大間抜けとは何よ。私は間抜けかもしれないけど、大間抜けじゃないわよ。
あゆみ　どっちも変わらないわよ。
知里　いいえ、間抜けと大間抜けじゃ、玉子丼とカツ丼ぐらい違うわ。
あゆみ　はいはい、わかった。大間抜けは私で、あんたは間抜け。
知里　それでいいのよ。

あゆみ　変な所にこだわるのね、あんた。
知里　でもさ、私達も応援参加したかったね。
あゆみ　何今更言ってるのよ。お茶の手配したり、買出しも大切な仕事よ。
知里　わかってるよ。きちんと応援するには、誰かが裏方の仕事をしなくちゃいけないもんね。
あゆみ　そう、今回は今年最後の先輩達と、初めての一年生に応援を頑張ってもらえるよう、私達二年生が裏にまわるって、決めたじゃない。
知里　うん。私達は、一生懸命応援する人のための応援団よ。
あゆみ　あら、あんたもたまにはいいこと言うじゃない。
知里　ま、あんたの場合、踊りが下手だから、こっちのほうが性に合ってるけどね。
あゆみ　あんただって踊り下手じゃない。
知里　踊り下手なのよねえ、私達。
あゆみ　そうよ。どうせ私達はど下手なのよ。
知里　ちょっと待ちなさいよ。ど下手は聞き捨てならないわね。
あゆみ　また変な所にこだわる。
知里　そういう細かな指摘が気になるのよ。
あゆみ　わかりました。ど下手は私で、あんたは単なる下手くそ。
知里　「くそ」は余計よ。
あゆみ　あんたは下手。
知里　それでいいのよ。
　・サイレンの音が聞こえてくる。
あゆみ　わ、野球部の試合始まっちゃうわよ。
知里　本当だ、急ごう！
あゆみ　大体、あんたが時間間違えたから。
知里　あんたの寝坊がいけないのよ。
あゆみ　私達って、本当　あんぽんたんね。
知里　ちょっと待ちなさいよ。あんぽんたんって、それは道徳的に言ってもひどすぎるわ。

あゆみ　わかったわよ。私があんぽんたん、あんたがとんちんかん。
知里　とんちんかんって何よ。
　・二人、互いに罵り合いながら、走り去る。
　・応援団、チアガール部　ともに新しいユニフォームに着替えて、野球部の試合を見ている。
ＳＥ　（審判の声）ボール・ボール・・・フォアボール！
　・相手校の応援の声援
団長　やべえな。
副団長　ああ。
梨加　武田君、顔しかめてる。
リーダー　相当我慢してるわね。
梨加　このままじゃあ、コールド負けしちゃうかも。
副団長　馬鹿、縁起でもないこと言うなよ。
梨加　ごめん。
リーダー　悔しいよね。武田君、頑張ってるのに応援できないなんて。
副団長　今は相手チームの攻撃だからな。
団長　・・・いや、今から応援する。
リーダー　崇晃、まずいよ、今は向こうの応援の番よ。
梨加　今、こっちが応援始めたら、それこそケンカよ。
団長　大丈夫だ。実は試合前に、向こうの応援団に武田の怪我のことを話した。
リーダー　怪我のこと、しゃべっちゃたの？
団長　ああ。うちのピッチャーの調子が悪いときは、すまないが応援させてくれって頼んできた。
梨加　で、相手は何て言ったの？
団長　そういう事情なら、是非ピッチャーに声を掛けてやってくれ、もちろん、自分のチームには黙ってるって。
リーダー　向こうの団長も、なかなか粋なこと言ってくれるじゃない。

副団長　応援する気持ちのわかっている団長なんだな。
梨加　そういうことなら、早く武田君、応援しなきゃ。
団長　ああ、でも了解は得ていても、急に始めるのは相手に失礼だ。伝令！
・伝令係が前に出る。
平田　ウス！
団長　向こうの応援団に行って、今からこちらも応援を始めることを伝えてくれ。
平田　ウス！
リーダー　団長さんに、理解ある厚意に感謝しますって伝えて。
平田　わかりました。
・伝令係　去る。
団長　よし、みんな聞いての通りだ。全員　応援の配置に着け。
全員　おう。
団長　旗手！
阿部　ウス！（センターへ出る）
団長　相手校へ礼を尽くし、団旗、捧げ！
阿部　ウス！
・太鼓の音
全員　ウース！（礼）
・旗手　団旗を掲げ、客席頭上に振る。
団長　やめ！
・太鼓の音
団長　茜、応援始めるぞ。
リーダー　うん。
団長　へたばるなよ。たとえこの一回戦で終わっても、武田に悔いの残らないような応援をしてやるんだ。
リーダー　わかってる、あんたこそ、途中でバテたら承知しないから。
団長　ああ。よーし、野球部の応援始めるぞ！
リーダー　みんな、いくわよ！
全員　はい！

団長　・団長にピンスポットライト。
全員　フレー、フレー、滝ー高ー。
団長　フレーフレー滝高、フレーフレー滝高。
滝高名物、バチ踊り！
・全員、バチを下に後ろ向き。
（太鼓に合わせた、勇壮なバチ踊りが始まる。）
全員　カキーン（打たれる音）　相手チームの声援。
SE　武田！
団長　武田君！
リーダー　・口々に武田への声援を送りながら、部員たちは踊りつづけていく。声援は泣き声混じりとなり、熱い太鼓の応援の中、静かに幕が下りていく。

――幕――